

令和元年度第一回 中央図書館区民懇談会

日 時：令和元年 8 月 23 日（金）

午後 3 時～午後 5 時

場 所：中央図書館 視聴覚室

- 1 委嘱状伝達
- 2 あいさつ
教育委員会事務局地域教育力担当部長
- 3 説明および懇談
 - ・調べるサービスの充実
 - ・障がい者サービスのこれから

資料

（事前送付分）

- ・懇談テーマ① 調べるサービスの充実
- ・懇談テーマ② 障がい者サービスのこれから

（机上配布分）

- ・インターネット閲覧コーナー（導入商用データベース一覧）
- ・パスファインダー（子育て情報を調べる）
- ・図書館を使った調べる学習コンクールパンフレット
- ・身体が不自由な方のための図書館利用案内
- ・中央図書館区民懇談会 補足ご意見
- ・令和元年度 第 2 回 板橋区立中央図書館区民懇談会の開催候補日について
- ・板橋区立中央図書館区民懇談会委員名簿

令和元年度 第1回 板橋区立中央図書館区民懇談会 概要

1 日 時：令和元年8月23日（金）15：00～17：00

2 会 場：中央図書館 視聴覚室

3 当日出された意見・提案

（1）調べるサービスの充実について

①図書館を使った調べる学習コンクール

- ・小学校は、学校によって取組の温度差がある。こういう見本があると良い（レプリカの見本を各委員に手にしてもらった。）。親のバックアップがないと、受賞作品ぐらいのレベルまではいかないと感じる。
- ・中学校は、学校によって取組の仕方は違うが、理科や社会など日常に関連することで調べてみようということを発端に行っている。教育科学館でもこういうのを募集している（いたばし自由研究作品展）。全校にはいたってないので、広げられるようにしたい。
- ・学校で3Dプリンターを使って、調べる学習で実際にモノを作り、まとめたものをインターネット上で発表しているところもある。
→公共図書館でも最近は3Dプリンターを取り入れている。塩尻市立図書館では、山の凸凹を3Dプリンターで作ったものを展示している。3Dプリンターは日本でも遅ればせながら、導入されつつある。

②学校と図書館との連携

- ・学校では、学校図書室の司書が窓口になって調べる学習の支援をしているが、それとは別に中央図書館や地域図書館と団体貸出等で繋がっている。
- 学校と図書館の連携が強化されるとより良い。図書館と生徒、学校と生徒だけではなく、図書館と学校図書室と先生方がいて生徒が真ん中にいるというイメージが強くなればと思う。

③パソコンが利用できる学習室について

- ・子どもが調べ物のまとめをする時にパソコンを使える学習室でそういうソフトが入っていて、まとめの支援があると良い。板橋区内のボランティアを活用し子どもの勉強を見てあげたりと、地域と一緒に子ども調べる

る学習をサポートできるようになればと思う。

→パソコンが利用できる学習室というのは、持ち込みを想定しており、パソコンを備えておくのは難しい。

→相対的貧困と呼ばれている子ども達が、日常的にパソコンを家で使えるかという難しい部分もあるので公共の施設で使わせて頂けると子どものICTのレベルも上がるし、図書館の情報リテラシー支援としても良いのでは。

→自治体によっては、固定のケーブルに繋がったパソコンを止めるところもある。

→調べ学習は、パソコンではなく携帯等で自分の持っている端末でできる。

→高校生は、スマホは持っているがパソコンがない子も多く、就職とかでエクセル・ワードを使ったことがない子もいる。そういう情報基盤は公共図書館が担保してあげられたら良いのではないかな。

→学校にはタブレットパソコンが人数分あり、Wi-Fi環境も整っているので、そこで全員がエクセル・ワードに触るチャンスはある。プラスαとしてもっと専門的に調べたいという子どもは、公共図書館に行って活用できればいいかなと思う。

④子どもへの調べるサービスについて

- ・レポートの書き方については、中学生がどうやって書けばいいのかを図書館で聞いたり、職場体験でお世話になった司書の方にコンクールのことを教えてもらったりと、図書館員との交流はある。

→今までの公共図書館は、そこまではやらないというのが基本だったが、そういう時代ではなくなり、今はフォローをしていく時代。

- ・板橋区の絵本作りワークショップでは、うちの学校から美術部が行っているが、プロが教えてくれているので、子ども達に感想を聞いたら、すごく楽しいと言っていた。

→図書館の方でも子ども達へそういったフォローが増えると、子ども達の関心も多様化して色々高まる。

⑤一般区民への調べるサービスについて

- ・調べるサービスについて、図書館にどういう風に相談したらいいのかわからない。レファレンスコーナーに行けば色々教えてくれるとのことだが、小中学生は自由研究・学習コンクールといったテーマがあるが、一般区民の方は調べることに對してどのように取り組んでいるのか。私自身認識がなく図書館は本を借りる場所だと思っていた。こういうサービスが充実したら素晴らしいものになると思う。調べる目的で図書館に来る方はどのくらい

いるのか、そういう人達を増やすにはどうすべきかが課題だと思う。

→図書館は本を読んだり借りたりという側面と、図書館の資料で調べるという側面が総合的でないといけない。図書館は貸出するところというイメージが定着してしまっていて、図書館で調べるということが利用者側も図書館員側も希薄化している。

- ・会社を経営していたとき、情報を自分で一生懸命集めていたが、そういう情報を図書館で聞けるのは素晴らしい。健康のことや、相続のことなど色々問題を抱えている方は多いと思う。そういう方が、図書館へ行って聞いてみようとなり、それが段々積みあがっていくと事例も蓄積していき、事例も豊富になれば図書館利用人口も増え、図書館は素晴らしいものになると思う。

→図書館で調べるサービスを行うと、図書館員は国立国会図書館から本を頻繁に借りることになるが、板橋区の場合、国立国会図書館との実績は16しかない。これは、あまりにも少なすぎる。図書館側から利用者への調べるサービスの提案が不足しているということと、膨大な資料があり簡単に検索できてすぐ借りられることが利用者側に認知されていない。

図書館員は利用者から言われたことは必ずメモを取り確認したり、本棚にも一緒に付いて行って、話を聞き取ることが基本である。

- ・新しい図書館ができた時に、ただ本を貸し出すだけでなく、調べるサービスがあることを区民に徹底して頂くと、多くの方が利用して頂ける。

- ・仕事のことで調べものをする際は、直接国立国会図書館へ行っている。最寄りの図書館を利用すると情報が入ってくるまでに時間がかかるイメージがある。これから、調べるサービスを充実するにはスピードとかも観点として見て頂きたい。公共機関は何となく遅いというイメージがあるのでそれを払拭できるようなサービスがあると良い。

- ・生活や身近なことで住民の方が抱えている問題を図書館に聞くということが普通にできるようになれば、図書館の価値が高まる。

- ・調べるサービスの敷居を低くしなければと感じる。聞きやすさ、伝えやすさを含めて、児童はもちろん、大人、お年寄りを含めた配慮をしていきたい。

- ・レファレンスサービスで、普通の図書館だと貸出・返却と同じ列に並んで、聞いたりしている。それを堂々とできるように、例えば銀行の番号札のよう

- に、システムのすっきりとできるようになればいい。
- そういうカウンターを入りに設けるべき。大田区は、入り口のところに相談カウンターがある。
- できるだけカジュアルに相談できるような体制になってほしい。利用者側の方で、シャイな方は中々レファレンスカウンターを利用できない。利用する人が気軽に入っていけるものでないと。
- 貸出・返却は ICT 化して、レファレンスカウンターに人が常駐できるよう等、必要などころに人的サービスができるように新しい図書館では工夫してもらいたい。

(2) 障がい者サービスのこれから

①質問事項

- ・新しい図書館では、障がい者の方がここへ行けばニーズに答えられるといったレイアウトになっているか。
- フロアの中に、(仮称) ハンディキャップサービスエリアがあり、対面朗読ができたり、障がい者用の資料が手に取れるつくりになっている。
-
- ・今後の方向性の中に、図書館サポーターの活動充実とあるが、対面朗読以外にも読み聞かせ、書架の整理、レファレンス、どのような形でどのくらいの人数がかかわるのか。
- 今、300 名登録が済んでおり、読み聞かせの活動を中心に行っている方が多いが、装備作業をしたいという方も結構いるので、そういう方とマッチングを上手くしていきたい。対面朗読等は、グループ単位で活動しているところもあるので、そういったところとうまく連携していく。
-
- ・障がい者のサービスで出前的なサービスはあるのか。
- 宅配サービスや、郵送サービスといった図書を届けるサービスはある。障がい者に限らない範囲に広げていきたい。
- 例えば、他自治体で老人福祉施設に対面朗読や読み聞かせをしに行くといったサービスを行っているところはある。
- 提供する側からしたら、人員や時間の制約もあるし、そこまで手が回らないのでは。
- 近い将来は、AI が進みカウンターに司書はいなくて、人は外に出て行ってサービス展開できるようになると思う。

→朗読グループに所属しているが、図書館が団体に声をかけて頂ければそういった活動もできるのではと思う。

②対面朗読について

- ・高島平で朗読ボランティアをしているが、利用者が少ないことが悩みである。利用者の掘り起こしが必要。対面朗読は障がい者手帳を持つことが条件だが、そのハードルを下げて、利用者が増えればいいなと思う。
- ・宣伝活動も、どう周知していくか。うちに来る方は口コミでくる方が多い。板橋区視覚障害者福祉協会で周知してもらっているが難しい。
- ・録音機械の問題について。今まで録音機械は謝金から購入したり、寄付してもらったりしていたが、10年以上使用したのが1台壊れた。修繕費1台3万円。利用者が多ければ謝金も入ってくるが、機械の問題はどこまでボランティアが行うのか。録音機械は1台8万円する。録音はすぐできるものでなく、調べて練習して、家で持ち込んで行う。
- ・デイジー再生機の貸出を初めて知った。利用者の方で、再生機をお持ちでない方へはニリンソウで買った再生機を貸出していたが、今回図書館で貸出していることを初めて知り、早速高島平図書館の担当者をお願いをした。

③障がい者サービスの定義について

- ・視覚障害者の方に手厚くサービスをしていると思うが、板橋区として障がい者の定義をどうされるかというところにあると思う。障害者差別解消法や読書バリアフリー法は、視覚障害者や聴覚障害者だけではなく学習障害の方や、手帳を持っていない方、多文化サービスのところで日本語が母国語でない方で生活に困っている方のサポートとか、色々な範囲にわたるが、全部対応できるのが理想だが、現実的には設備や予算の問題が色々あって理想論だけではやっていけない。新しい図書館になったときに、今の視覚障害者を中心とした形ではなく、障がい者サービスというよりも、全体的に「図書館を利用することに障がいを持つ方へのサービス」という風に定義が変わったので、どのあたりまで板橋区として対応するのかを一度整理した方が良い。
- ・障がい者サービスの利用状況を見ると、お年寄りが増えているのに利用者が減少している現状について課題がある。例えば、施設自体のハードルを下げ

るということも考えるべき。図書館だけでなく、出張の対面朗読を何かの講座と一緒にするなど企画を考えたりしてもいいのでは。

- ・障がい者のサービスを独立して捉えるのではなく、障がい者の方も一緒に来て、他の人たちと図書館で交流できる方法でサービスを充実させた方がよい。また、お金をかけたり、人を増やしたりということではなく、今ある中で、学校や地域と連携し、図書館という場だからできる障がい者サービスについてアイデアを出していくべき。例えば、新しい図書館ではエレベーターができるので、今までエレベーターがなくてできなかったことのサービスの充実を図るなどお金をかけないで出来ることを考えた方がよい。
- ・障がいを持ったら一生そうなるという訳ではなく、障害者差別解消法では、一時期病気の方、妊娠されている方、のように一時期の方も障がい者という定義となっているので、「図書館を利用するのに障がいがある方」というのがこれからの障がい者という形のサービスとなる。区別するとかではなく、全ての利用される方が、皆さん使えるようにと考えるべき。

④その他

- ・ディスレクシアの方のためにリーディングトラッカーというツールがあり、それは図書館で自作できるということと、LLブックという日本語を母国としない人に向けた易しい本もある。

- ・サービスを提供する側からしか視点がなかったので、障がい者の方からの意見聴取会を開くのは。使う側からの声を聞くべき。

→対面朗読するときに、何人か利用者に1対1で聞いたりしているが、中々要望が出てこない。

→座談会みたいな形式はどうか。図書館サービスにはないところでITが進んで自宅でできるようになっている現状もあるかもしれない。

→今はパソコンやスマホで情報が聞けるようになっている。

→地域ごとに活動されている方々が図書館に集まって、課題について話し合える場があると良い。そこで、図書館が先ほどのレファレンスサービスを行う。レファレンスサービスは個人にするだけでなく、地域の課題解決をするための情報サービスである。どうしても、個人対図書館になっているが、図書館は地域の情報基盤であるので、地域の課題を解決するための情報・資料・図書館になるので、新しい図書館になったら、皆さんのお困りのところを解決できるような図書館になってほしい。

- ・布絵本のグループに参加していた。布絵本は視覚障害の方だけでなく、学習障害の方にも提供でき、五感のうちのいくつかをフルに使うものなので、図書館では積極的に置いてほしい。目の見えない子と見える子の兄弟が、布絵本を読んで楽しんでいる温かい姿も見たことがあった。練馬区、北区はどの館にもあり、貸出が自由になっているが、板橋区には赤塚図書館にしかない。メンテナンスが大変だが、ボランティアさんを駆使して、導入してほしい。

→例えばクラウドファンディングで資金を集めるとか工夫したり、ボランティアの講座でもテーマを決めたり率直に図書館側は意見を出していいと思う。

4 追加の意見・提案

(1) 調べるサービスの充実について

- ・図書館には本の貸出だけでなく、問題解決のための調べるサービスがあることを区民に広く知ってもらう方法・対策を検討する。

- ①区役所発行の広報による紹介
- ②図書館発行の広報による紹介
- ③Facebook による体系的な紹介

- ・調べるサービスでは、どのような問題が解決できるか事例や書籍を紹介する。

- ①健康上の悩み解決（腰痛、高血圧等）に関する本の紹介、相談
- ②相続等の法律問題に関する書籍の紹介や相談
- ③事業、ビジネスに関する調査のための書籍の紹介や相談

- ・調べるサービスを利用しやすい環境を整備する。

- ①レファレンスカウンターを利用しやすい目立つ場所に設置する。
- ②貸出カウンターとレファレンスカウンターを区分する。
- ③区内の各種団体や機関と連携する。

i) ビジネスに関しては、商工会議所、法人会、ロータリークラブ等との連携

ii) 一般区民に関しては、各町内会、区役所各部局等との連携

iii) 児童、ヤングに関しては、小中学校との連携強化

- ・メールやFAX等で事前に予約しやすくする。

(2) 障がい者サービスのこれから

- ・ 障がい者サービス機器をさらに充実する、予算を十分確保する。
- ・ 障がい者用のスペース、コーナー、部屋等を独立して設置する。
- ・ 障がい者に対する出前サービス、自宅サービス等を検討する。

I 「課題解決型図書館」で実践する「調べるサービス」

新しい中央図書館の改築に向けて、平成28年度に策定した板橋区立中央図書館基本計画では、5つの重点テーマを定め、それらに沿った具体的な図書館事業・サービスを示しています。

重点テーマの1つ「課題解決型図書館」は①図書館の豊富な資料と情報、②レファレンスや情報検索機能を核としながら、図書館ネットワーク等を活用することにより、新しいサービス提供を目指します。それを実践する内容を「調べるサービス」としています。

1 課題解決をサポートするためのレファレンスサービスの充実

- (1) 区民の日常生活から生じる様々な課題や疑問を解決する手助けとなる
- (2) 適切な資料・情報を提供する、レファレンスサービスを充実

2 他自治体図書館や関係機関との連携強化

- (1) 国立国会図書館、東京都立図書館や他自治体図書館との相互貸借

平成30年度 相互貸借実績

借受元 館名	合計	都立	他区	多摩地区	他県	国会	大学等	その他
全館計	8,757	506	7,763	430	36	16	0	6

- (2) 区内関連施設や区内企業との連携を深めた幅広い情報提供

- ① 教育科学館（29年度 とびだせ！としょかん！の実施）
- ② 公文書館（レフェラルサービス）
- ③ 郷土資料館
- ④ エコポリスセンター

3 インターネット環境の整備と資料活用

- (1) オンラインデータベースの充実
- (2) パソコンが利用できる学習室の設置
- (3) 公衆無線LAN（Wi-Fi）の整備



ソフト面の主な取組

- ・レファレンス機能を満たす参考資料の収蔵
- ・レファレンス体制の整備（人のサポート）
- ・オンラインデータベースの拡大
- ・他図書館や関係機関とネットワーク強化等

ハード面の主な取組

- ・レファレンスカウンターの設置
- ・インターネット環境の整備
- ・グループ学習室の設置
- ・資料を探しやすいサイン・配架

II 板橋区立図書館での取組

中央図書館は、図書館の調べるサービスを活かした事業として平成24年度より「図書館を使った調べる学習コンクール」を主催しています。これに合わせて、調べ学習の勉強会や応援講座も開かれています。このほかにもパスファインダーの提供やレファレンスバッジの着用等を実施し、調べるサービスの充実を図っています。

1 「図書館を使った調べる学習コンクール」の実施

区内小中学校と連携し、小学校・中学校部門の応募を募っています。子どもたちは図書館で資料を集め、「読解力」と「記述力」を使ってレポートにまとめています。夏休みの課題としてチャレンジしている児童、生徒が多いようです。

平成30年度 応募状況及び審査結果

	小学校 低学年の部	小学校 高学年の部	中学生の部	合計
応募数	883	985	262	2,130
表彰				
最優秀賞	1	1	1	3
優秀賞	3	3	2	8
奨励賞	8	8	3	19
合計	12	12	6	30

応募校数 小学校46校、中学校8校



2 調べ学習応援講座の開催

夏休みに課される自由研究や「調べる学習コンクール」の実施に合わせ図書館職員が「テーマ」の選び方や「調べる」までの過程、資料を使った調べ方の講座を行っている。

3 パスファインダーの提供

課題解決される方の手助けに、パスファインダーの活用に積極的に取り組んでいる。

4 レファレンスバッジの装着

従業者はレファレンスバッジを装着し、利用者が声をかけやすい雰囲気を整えている。



III 今後の方向性

板橋区立中央図書館基本計画では、新しい中央図書館像として「区内10館の地域図書館の核となり、区民の求める適切な情報を提供する図書館」と方向性を示しています。

調べるサービスにおいては、11館のネットワーク体制を強化することが課題となっています。

○サービスのネットワーク強化

- ・レファレンス知識の継承
- ・レファレンス事例の蓄積と共有
- ・パスファインダーの拡充
- ・調べるサービスの拡充

I 障がい者サービス 区立図書館の取組

板橋区立図書館では、障がい者の方やそのご家族に向けて、ホームページや別紙「身体が不自由な方のための図書館利用案内」を配布し障がい者サービスの周知を行っています。

また、大活字本の提供や、カウンター回りでは拡大鏡、老眼鏡の提供等を行っています。

1 「身体が不自由な方のための図書館利用案内」の配布

- （1）点字、録音図書、デジタイ再生機器の貸出（点字 283 点、貸出テープ 7 点、貸出 DAISY 数 41 点）※29 年度実績
- （2）録音図書又は点字図書の郵送サービス（Ⅱ）
- （3）対面朗読、テープ録音（Ⅱ）
- （4）宅配、郵送サービス（Ⅱ）

2 大活字本の提供（蔵書数：約 10,000 冊）

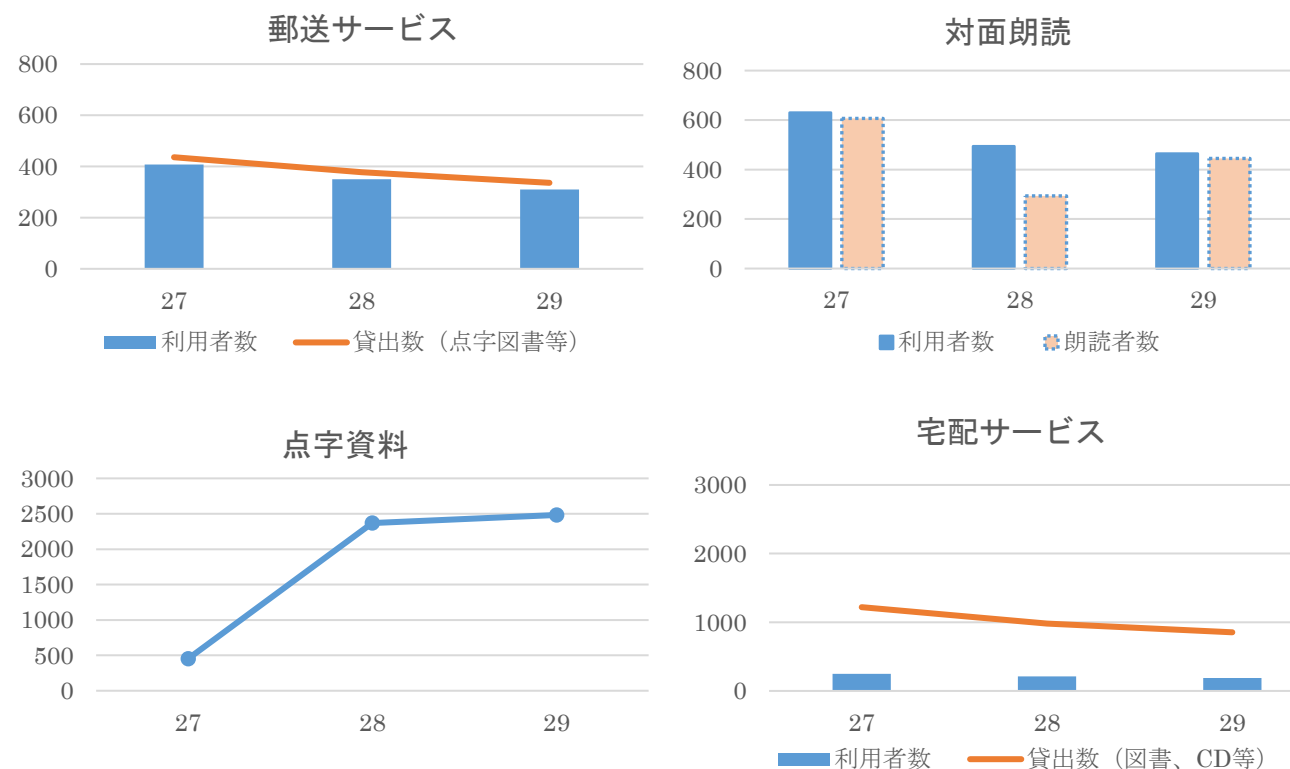
3 拡大読書器の設置（設置数：5 台 中央・高島平・蓮根・赤塚・志村）

4 拡大鏡、老眼鏡の提供（区内全図書館）

II 障がい者サービス 利用状況

過去 3 年間における板橋区立図書館での障がい者サービスについて、以下グラフにまとめました。

対面朗読、郵送サービス、宅配サービスともに利用者数は減少傾向にあります。対面朗読の朗読者数は、29 年度に増員を図りました。点字資料に関しては、28 年度に資料充実を図り、蔵書数を大きく増やしています。



III 障がい者サービスの充実に向けて

平成 28 年度に策定した板橋区立中央図書館基本計画では、重点テーマの中で障がい者向けサービスについて以下のとおり示しています。

1 新しい中央図書館の障がい者サービス

（1）障がい者向けサービスの拡充

- ① 録音資料（音声デジタイ図書を含む）の提供 →サピエの登録に伴い、音声デジタイ図書の選定を進行中
- ② 自動読み上げ機器の導入 →読書バリアフリー法に伴う、国や都の動向を含めて検討中
- ③ サピエの登録 →平成 31 年 4 月に登録済
- ④ 車いす用閲覧席の設置、施設のバリアフリー化等

（2）電子書籍の導入

来館しにくい障がい者や高齢者向けの非来館型サービス →（Ⅳ）その他

2 『読書バリアフリー法』の制定

令和元年 6 月 21 日に視覚障害者らが、より読書を楽しめるよう国や自治体の責務などを定めた「障害者読書環境整備推進法（読書バリアフリー法）」が成立しました。基本理念を以下紹介します。

（1）アクセシブルな電子書籍等（デジタイ図書、音声読み上げ対応の電子書籍、オーディオブック等）の普及

（2）アクセシブルな書籍（点字図書、拡大図書等）の提供

（3）アクセシブルな書籍、電子書籍等の量的拡充、質の向上が図られること

（4）視覚障害者等の障がいの種類・程度に応じた配慮がなされること

※アクセシブル：近寄りやすいさま。利用しやすいさま。（デジタル大辞泉より）

IV 今後の方向性

1 資料充実

- （1）音声デジタイ図書の資料充実（閲覧、貸出サービスを開始）
- （2）音声デジタイ再生機の台数充実（貸出用）

2 制度充実

- （1）宅配サービス、郵送サービスの利用対象者拡大
- （2）図書館サポーターの活動充実

3 設備充実

（1）対面朗読室の利用拡大（施設充実に伴う活用の方向性）

その他、電子書籍の導入を国や都の動向から見極めて、課題とすることや効果的な周知の実施（チラシ、障がい者福祉のしおり等）をアピールする必要があります。



デジタイ

インターネット閲覧コーナー

調査・研究を目的としたインターネット閲覧用にパソコンを無料でご利用いただけます。

また、板橋区公式ホームページ、板橋区立図書館ホームページ及び区が契約した商用データベースのプリントアウトサービスがご利用いただけます（有料）。

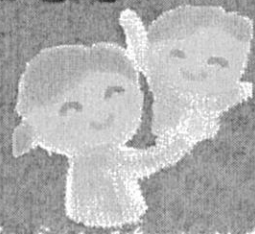
（平成 31 年 4 月 1 日現在）

館 名	導入商用データベース
中 央	「日経テレコン 21（日経新聞記事等検索）」 「官報情報検索サービス」 「D 1 - L a w 第一法規法情報総合データベース」
赤 塚	「聞蔵Ⅱテキスト（朝日新聞記事等検索）」 「ポプラディアネット（百科事典検索）」
清 水	「ヨミダス歴史館（読売新聞記事等検索）」 「ジャパナレッジ（知識検索）」 「ポプラディアネット」
蓮 根	「ヨミダス歴史館」「ジャパナレッジ」「ポプラディアネット」
氷 川	「官報情報検索サービス」 「聞蔵Ⅱビジュアル（朝日新聞記事等検索）」 「ポプラディアネット」
高島平	「聞蔵Ⅱテキスト」「ポプラディアネット」
東板橋	「聞蔵Ⅱビジュアル」「ポプラディアネット」
小茂根	「聞蔵Ⅱビジュアル」「ポプラディアネット」
西 台	「ヨミダス歴史館」「ジャパナレッジ」「ポプラディアネット」
志 村	「ヨミダス歴史館」「ジャパナレッジ」「ポプラディアネット」
成 増	「聞蔵Ⅱテキスト」「日経テレコン 21」

* 絵本館は除く

子育て情報を調べる

子育てに役立つ情報は多々あり、図書館内で複数の箇所に並んでいます。下記の表にある分野名を鍵に、探してみてください。これらは検索の際のキーワードにもなります。



🔍 テーマの棚に行って図書館の本を探す

本には1冊毎にテーマを表す請求記号が付いていて、番号順に棚に並んでいます。分野名をキーワードとしても使えます。

＜関連分野の請求記号＞

請求記号	分野名	請求記号	分野名	請求記号	分野名
019	よみきかせ	376	幼児・初等・中等教育	593.3	子ども服
148	名づけ	378	健康：運動、衛生	596	食育
367.3	家、家族関係	378.6	発達障害（教育）	598.2	妊娠、出産
367.6	児童・青少年問題	379.9	家庭教育、しつけ	598.3	家庭医学
369.42	保育所、託児所、学童保育	385	通過儀礼・子どもの行事	599	育児
370	教育	493.1	アレルギー性疾患、体質異常	599.3	授乳、食事、離乳食
371.42	問題行動、不登校、いじめ	493.9	小児科	599.9	習慣、しつけ
371.43	教育診断、カウンセリング	498.5	食育		
373.1	教育政策、教育制度、学校制度	498.7	小児衛生、母子衛生		

💡 図書館所蔵の子育て資料 ★はインターネット情報サイト

貸出可能な事典類のほか、館内のみ利用の参考図書（請求記号の頭にRがつくもの）もあります。OPACで気になる語をキーワード検索すると、より詳しい本を見つけられることもあります。

タイトル	請求記号	配置館
子ども白書	R369.4	全館
症状ごとに「見てわかる!」赤ちゃんの病気新百科 0カ月～3才 ごろまでこれ1冊でOK!	598	中央、氷川、東板橋
この1冊であんしんはじめての育児事典 最新版 HELLO!MY KIDS	599	小茂根
子育てハッピーアドバイス シリーズ	379	中央ほか
学力は「食育」でつくられる。	498.5	東板橋
子育て支援と心理臨床シリーズ vol.1～16	369.4	小茂根

- ★ **いたばし子育て情報サイト** <http://www.city.itabashi.tokyo.jp/sub04/> 「妊娠・出産」「子どもの健康」「遊び場」等がさらに細分化して紹介されています。「赤ちゃんの駅」の設置一覧等
- ★ **板橋区医師会** <http://www.itb.tokyo.med.or.jp/kosodate/index.html>
子育て支援のページがあり、発達診療やブレママ・ブレバパコース等の案内があります。
- ★ **あんふあん web** <https://enfant.living.jp/>
3歳～小学校低学年児ぐらまでのしつけやおでかけ、手作りレシピ等のお助け情報が豊富です。

図書館にはベビーベッド、赤ちゃんトイレ等を備えています。
お気軽にご利用ください♪

図書館所蔵の子育て雑誌

タイトル	内容	配置館
母の友	“ゆっくり子育て”と“たっぷり絵本”の2本立てで子どもとの暮らしを考える。	小茂根、蓮根
Kodomoe (コドモエ)	「親子時間」を楽しむ子育て情報誌。	中央、成増、高島平
Chio (チオ)	子ども(乳児〜)と親の健康についての情報多数。	氷川、高島平
おそい・はやい・ひくい・たかい	ベテラン教師による学習技術、学校・PTA・親同士のトラブル解決法ほか豊富な内容。	志村
かぞくのじかん	子育て世代の暮らす、育てる、働くを考える。	小茂根、蓮根
この本読んで!	絵本と読み聞かせの情報誌。	中央、氷川、小茂根ほか
AERA with Kids	小学生をもつ親の実用誌。	中央、小茂根、志村
プレジデントFamily	中学受験を意識した教育や生活法の案内。	氷川、西台、清水ほか
各種小学生新聞	毎日、朝日、読売(読売は週刊)	中央ほか
朝日中高生新聞	政治・経済、社会ニュースの解説と入試対策あり。	東板橋、蓮根

類縁機関の紹介

板橋健康福祉センター (上板橋、赤塚、志村、高島平の計5センター)

大山東町 32-15 tel:3579-2333

区のサイトで「卒乳講座」等のイベントの案内を見ることができます。

東京都福祉保健局 <http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/joho/sodan.html>

東京都が取り組む子育て支援の状況を市区町村ごとにチェックできます。

また、各種相談窓口も豊富です。

子育て関係の相談窓口：電話相談「子供の健康相談室」(小児救急)、
妊娠相談ほっとライン、不妊・不育ホットライン、
SIDS(乳幼児突然死症候群)電話相談、TOKYO 子育て情報サービス、
児童の養育・しつけ等の相談、子供の権利擁護専門相談



しらべます
さがします

●雑誌記事および国会図書館所蔵の資料

○<http://iss.ndl.go.jp/> ← こちらの「国立国会図書館(NDL)サーチ」を使うと、一度に国会図書館の所蔵資料の有無、また同じキーワードでの雑誌記事および全国の県立図書館等の所蔵を検索できます。

●新聞記事

○朝日新聞記事データベース(聞蔵)

当図書館で契約しているデータベース。明治創刊号〜本日までの新聞記事を検索し、テーマの新聞記事でテーマ、キーワード、日付等から検索して全文を読むことができます。

○「47NEWS」<https://www.47news.jp/>

52の新聞社と共同通信社の情報をキーワードで検索できます。

○国会図書館 リサーチ・ナビ https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-700003.php

その他の無料検索サイトの一覧が「国会図書館 リサーチ・ナビ」で一覧できます。

●区立図書館以外の資料

○都内統合検索(都立図書館提供)

http://ufinity01.jp.fujitsu.com/metro/index.php?action=pages_view_main&active_action=v3search_view_main_init&block_id=17002&tab_num=0&search_mode=detail

○カーリル

公共図書館を中心に全国を網羅。 <https://calil.jp/>

○CiNii Books

主に大学図書館や研究、専門図書館所蔵を検索できます。 <https://ci.nii.ac.jp/books/?l=ja>

特定分野に限らない共通の調べ方はそれぞれの「調べ方ガイド」があります。お気軽にスタッフにお声がけください!

応募方法

◎お住まい(または学校・お勤め先)の地域で「図書館を使った調べる学習コンクール」(地域コンクール)を開催している場合は、そちらへご応募ください。

- ・地域コンクールの開催地域、募集期間、部門等は、図書館振興財団ホームページでご確認いただけます。
- ・地域コンクールの募集期間は、全国コンクールの募集期間と異なります。ご注意ください。

◎お住まいの地域でコンクールを開催していない場合、また、地域コンクールを開催していても募集部門がない場合は、当財団へご応募ください。

◎個人で応募いただく際は、ホームページ「全国コンクール作品応募フォーム」からエントリーしてください。「応募カード」を1枚プリントアウトし、糊またはテープで作品裏表紙等に貼り、作品をお送りください。

URL: <https://concours.toshokan.or.jp/entry/personal/>

※下線部の「応募カード」で応募することもできます。その場合は1作品につき下線部の「応募カード」2枚を添付してください(コピー可)。1枚を糊またはテープで作品裏表紙等に貼り、もう1枚は作品に貼らず作品といっしょにお送りください。

◎組織(学校、図書館、教育委員会等)で応募いただく際は、「全国コンクール組織応募フォーム」からエントリーしてください。

URL: <https://concours.toshokan.or.jp/entry/org/>

お問合せ先

公益財団法人図書館振興財団 URL: <https://www.concours.toshokan.or.jp/>
〒112-0012 東京都文京区大塚3-5-9 住友成泉小石川ビル別館5階 TEL:03-3943-4743 FAX:03-5978-3291
コンクールの最新情報・データ入力用「応募カード」・応募に関するQ&A・入賞作品・審査結果は当財団HPでご確認ください



※応募作品は返却いたしません。 ※「応募カード」はコピーしてお使いください。縮小コピーはお控えください。

きりとり

第23回 図書館を使った調べる学習コンクール 応募カード

各欄に必要事項をご記入
または図をお入れください

作品番号(事務局記入欄)

応募部門

【調べる学習部門】 ☐小学生の部(□低学年/□中学年/□高学年) ☐中学生の部 ☐高校生の部
☐大人の部(大学生・社会人等) ☐子どもと大人の部

【調べる学習指導・支援部門】 ☐

タイトル

ふりがな

氏名

ふりがな

2名以上で1作品に取り組んだ場合の人数
※全員の氏名を作品に明記してください

[]人

学校名
組織名

ふりがな

小学校
中学校
高等学校 []年生

問合せ

☐組織応募(小学校/中学校/高等学校/公共図書館/その他)

☐個人応募

参加賞送付先

ふりがな
組織名 [] 担当者 []

※右から一方を
お選びください

住所 [〒 -]

住所 [〒 -]

組織番号
(事務局記入欄)

都道府県 市区町村

都道府県 市区町村

TEL

TEL

FAX

FAX

メールアドレス

メールアドレス

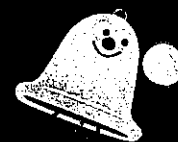
第
23
回

図
書
館
を
使
っ
た

調
べ
る
学
習

コ
ン
ク
ー
ル

知れば知るほど
知らないことが増えてい



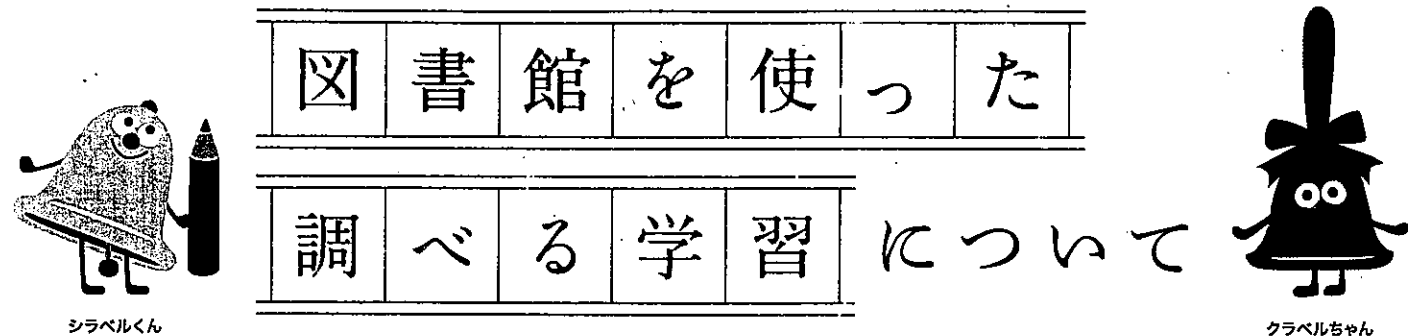
募集要項

募集期間 2019.9.9^① - 10.7^② 必着

結果発表 2020.1.9^③ 当財団HPにて

公益財団法人
図書館振興財団

(後援)文部科学省/観光庁/環境省/警察庁/国産生物多様性の10年日本委員会/東京都教育委員会/横浜市教育委員会/一般財団法人日本児童教育振興財団/
公益財団法人海外子女教育振興財団/公益財団法人日本図書館協会/公益財団法人日本児童図書館協会/日本児童図書出版協会/公益財団法人日本児童図書出版協会/
株式会社毎日新聞社/株式会社日本教育新聞社/株式会社教育新聞社/一般社団法人全私学新聞/株式会社教育出版新聞社/NHK
(協賛)大日本印刷株式会社/丸善雄松堂株式会社/株式会社図書館流通センター/株式会社カーリル/株式会社丸善ジュンク堂書店/株式会社文芸堂



概要

「図書館を使った調べる学習」とは、自ら課題を見つけ、公共図書館や学校図書館を使ってその課題を解決する一連の学習過程全般を指します。

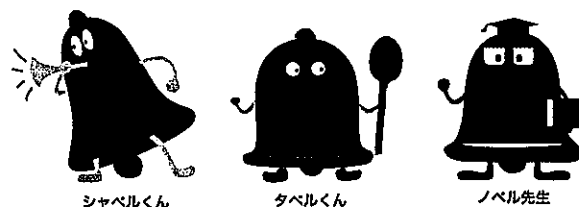
身につく力

調べる学習によって「知的好奇心」「体系的な思考や多面的な思考能力」「主体的な学び」「課題を見つけ、資料情報を探し、まとめ、表現する力」「自己肯定感」「著作権を尊重する姿勢」「将来のキャリアを描くきっかけ」等が身につきます。(国立教育政策研究所との共同研究より)

主体的・対話的で深い学び

「調べる学習」は新しい学習指導要領の柱のひとつ「主体的・対話的で深い学び」の一形態で、今後、学校教育では積極的に導入される学び方の一つです。

第22回 入賞者紹介



倉持よつばさん
千葉県 袖ケ浦市立
奈良輪小学校 5年

桃太郎は盗人なのか？
—「桃太郎」から考える鬼の正体—
江戸時代から大正時代までの「桃太郎」を読むのが大変でした。習っていない漢字がたくさん出てきて、何と読むのか分からない文字もあり、難しかったです。探している昔の本が、どこの図書館にあるのか、見つけるのが大変でしたが、司書さんがすぐ調べて下さり、詳しく教えてくれました。

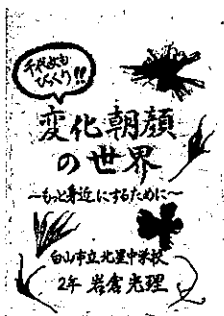
調べる学習部門
小学生の部(高学年)
文部科学大臣賞



岩倉光理さん
石川県 白山市立
北星中学校 2年

千代女もびっくり!!変化朝顔の世界
～もっと身近にするために～
作品を仕上げるまでにかかった期間は1年半。本で見た変化朝顔を実際に映かせることができたこと、「変化朝顔図鑑」の著者である仁田坂先生にお会いできたことが嬉しかったです。古い時代の朝顔に関する本がなかなか見つからず大変でしたが、図書館の司書さんが探してくれました。

調べる学習部門
中学生の部
文部科学大臣賞



上野祥大さん
東京都
海城高等学校 1年

福井県に若者が戻ってくるには
～観光と地場産業という面から考える～
調べれば調べるほど疑問が生まれるばかりで、結論になかなか辿り着けませんでした。しかし、その苦労が他の何事にも代え難い達成感を自分に与えてくれたのだと思い、一種の感動のようなものを覚えました。深く知ろうとすること、納得いくまで追求することの大切さを教えて頂きました。

調べる学習部門
高校生の部
文部科学大臣賞



鈴木正子さん
中村由起子さん
埼玉県
川口子どもの本を読む会

「浦島物語」の歴史的変遷と源流
「浦島子伝」の著作者の研究の深さにただ感心するばかりの毎日、各ページに驚きの発見がありました。(鈴木さん)
今回の研究を通して、口承で伝えられてきたケルト神話や中国少数民族の昔話が文字で残っているのは、その価値を認めて記録した異民族の人がいたからであるという事実を知り感動しました。(中村さん)

調べる学習部門
大人の部
文部科学大臣賞



調べる学習部門

学校・フリースクール等
小学1年生以上ならどなたでも応募できます

公共図書館や学校図書館を使って調べ、まとめた作品

- ◎身近な疑問や不思議に思うこと、興味があることなど調べるテーマは自由です
- ◎「見る」「聞く」などの体験や実地調査なども取り入れながら、どのように調べていったのか、その結果何がわかったかをまとめてください

レポートサイズ

小学生 B4または八つ切りサイズまで
中学生以上 A4サイズまで
※横造紙等にまとめる場合は、必ず上記サイズに折りたたんでご応募ください

ページ数等

全員：以下のものを必ず添付してください。
本文 1ページ以上50ページ以内
※表紙・目次・参考文献一覧は含みません
参考文献一覧 調べたときに利用した資料名と図書館名を必ず書いてください

小学生の部 低学年・中学年・高学年 中学生の部 中学生

高校生の部 高校生 大人の部 大学生・社会人等

賞：各部
〈入賞〉文部科学大臣賞、優秀賞 〈入選〉優良賞、奨励賞、佳作

子どもと大人の部 小学1年生以上の子どもと大人のグループ・親子

〈入賞〉優秀賞 〈入選〉優良賞、奨励賞、佳作

調べる学習部門

〈入賞〉観光庁長官賞^{※1}、「国連生物多様性の10年日本委員会」賞^{※2}

※1 日本国内の「観光に資する地域の魅力を再発見した」作品
※2 自然の仕組みの素晴らしさや大切さを伝える作品

調べる学習指導・支援部門

調べる学習を指導・支援した
個人や団体が応募できます

図書館を使った調べる学習の指導・支援の実践をまとめた作品

- ◎指導・支援の「ねらい、具体的な進め方、結果、成果の考察」などをまとめてください
- ◎指導・支援の成果物(作品)がある場合は、実例として添付してください

レポートサイズ 「調べる学習部門」同様です

ページ数等 「調べる学習部門」同様です

学校や公共図書館に所属する個人、団体
〈入賞〉優秀賞 〈入選〉優良賞、奨励賞、佳作

全部門共通

- ◎応募者全員に参加賞を進呈いたします
- ◎入賞、優良賞、奨励賞には副賞として図書カードを進呈いたします

作品応募時の注意点など

●このコンクールは図書館振興財団が主催する全国コンクールです。地元のエデュケーション委員会や図書館等が地域コンクールを開催している場合は必ずそちらにご応募ください。●地域コンクールおよび他のコンクールとの二重応募はできません。●応募者自身のオリジナルの作品に限ります。●大学等の専門機関における研究成果発表等は募集対象外です。●応募は、日本語もしくは英語で書いた作品に限ります。※英語で書いた作品を応募する場合は、作品の概要を日本語で1～2ページ程度にまとめて添付してください。概要のページ数は本文に含みません。●入賞作品の著作権は公益財団法人図書館振興財団に帰属します。●応募カードの個人情報は、当財団の個人情報保護方針に基づいて厳重に管理いたします。●「地域コンクール」で入選した作品も入賞・入選候補になります。●日本人学校、補習授業校、現地校などにご所属の皆さまもご応募いただけます※応募作品は返却いたしません。

図書館の利用が困難な方への利用案内

板橋区立図書館では、心身の障がいなどの理由で図書館の利用が困難な方を対象に、いろいろなサービスを行っています。あらかじめ登録が必要なので、各図書館へお問合せください。

サービスの種類	内 容	対 象 者
点字・録音図書・デジタル再生機器の貸出	点字図書・録音図書（カセットテープもしくはデジタル）を貸し出します。	区内在住・在勤・在学で、身体障害者手帳をお持ちの視覚障がい者を有する方。
録音図書又は点字図書の郵送サービス	点字図書5冊、録音図書（カセットテープもしくはデジタル）3タイトルまで郵送します。	
対面朗読・テープ録音	図書館の図書や利用者がお持ちになった図書を図書館サポーターが朗読・録音します。	
宅配サービス	図書20冊、カセットテープ・CD（中学生以上）合わせて5タイトルまで借りられます。	区内在住で身体障害者手帳視覚障がい1級又は2級、肢体不自由下肢1級又は2級又は3級、内部機能障害1級又は2級又は3級をお持ちの方。 区内在住で介護保険法に基づき要介護3又は4又は5の認定を受けた方。 心身障がい又は高齢により来館困難である方。

☆ はじめての方は、「図書館利用登録」と「障害者等サービス登録」が必要となります。絵本館をのぞき、裏面のいずれの図書館でも（代理の方でも）登録できます。

身体障害者手帳等を提示してください。手帳をお持ちでない方は、図書館にご相談ください。

☆ 貸出期間は、30日です。

☆ 点字毎日、広報いたばし・区議会だより・都議会だよりの点字版、声のたより（カセットテープ等）もあります。

☆ 宅配サービスの提供が困難な場合は、郵送サービスを提供できる場合がありますので、その際は、ご相談ください。

☆ 上記サービスは清水図書館・絵本館を除き各図書館で行っています。

板橋区立図書館一覧

図 書 館 名	所 在 地	電 話	開 館 時 間	休 館 日	交 通
中 央 図 書 館	常盤台 1-13-1	3967-5261	9時～20時	・ 第3月曜日と毎月月末(土日祝日)は翌日 ・ 3月31日 ・ 年末年始 ・ 特別整理期間	東武東上線ときわ台駅下車3分
赤 塚 図 書 館	赤塚6-38-1 赤塚庁舎2階	3939-5281			東武東上線下赤塚駅北口下車徒歩15分 東上線成増駅下車北口から赤羽駅西口行バスで赤塚庁舎前下車徒歩1分
※ 清 水 図 書 館	泉町16-16 清水地域センター3階	3965-9701			都営三田線本蓮沼駅下車7分
蓮 根 図 書 館	蓮根 3-15-1-101	3965-7351			都営三田線西台駅下車4分
氷 川 図 書 館	氷川町 28-9	3961-9981			都営三田線板橋区役所前駅下車10分 東武東上線大山駅下車8分
高 島 平 図 書 館	高島平 3-13-1	3939-6565			都営三田線高島平駅下車4分
東 板 橋 図 書 館	加賀 1-10-15	3579-2666			都営三田線板橋区役所前駅下車9分またはJR板橋駅から王子行きバス金沢小学校前下車
小 茂 根 図 書 館	小茂根 1-6-2	3554-8801			東京メトロ有楽町線小竹向原駅③出口下車5分
西 台 図 書 館	西台 3-13-2	5399-1191			東武東上線東武練馬駅徒歩20分または[みずほ銀行側]バス停から志村三丁目行きバスで「南西台」下車3分
志 村 図 書 館	小豆沢 1-8-1	5994-3021			都営三田線志村坂上駅または本蓮沼駅下車10分
成 増 図 書 館	成増 3-13-1	3977-6078			東武東上線成増駅(北口)下車3分または東京メトロ有楽町線地下鉄成増駅(5番出口)下車5分
※いたばしホローニヤ 子 ども 絵 本 館	本町24-1	3579-2665	10時～17時	絵本館にお問合せ下さい	都営三田線板橋本町駅(A1出口)下車徒歩5分

※中央図書館以外は、バリアフリー対応です。(エレベーター等)

※図書館の利用が困難な方へのサービスは、清水図書館・絵本館を除く各図書館で行っています。

令和元年度 第1回 中央図書館区民懇談会 補足ご意見

名前（ ）
主に利用する区立図書館名（ ）

本日はご多忙の折ご出席くださり、誠にありがとうございました。本日の懇談会を経て、もし補足のご意見等ありましたら、ご記入の上、下記担当宛ご提出をお願いいたします。

【 提出期限：令和元年9月6日（金） 】

ご協力ありがとうございました。

【担当・提出先】

板橋区教育委員会事務局 中央図書館 区民懇談会担当

〒174-0071 板橋区常盤台1-13-1

【TEL】3967-5261 【FAX】3967-5550

【Eメール】chuolib@city.itabashi.tokyo.jp

令和元年 8 月 23 日

懇談会委員各位

令和元年度 第 2 回 板橋区立中央図書館区民懇談会の開催候補日について

標記の件につきまして、下記のとおり開催候補日をお知らせいたします。

➤ 令和元年 12 月 6 日（金） 午後 3 時から午後 5 時まで

会場は本日と同会場の中央図書館視聴覚室を予定しております。

日程が確定し次第、開催通知をお送りいたします。

今後とも何卒よろしくお願いいたします。

【担当】 板橋区教育委員会事務局 中央図書館 管理係

担当：片桐、戸田

TEL 03-3967-5261 / FAX 03-3967-5550

板橋区立中央図書館区民懇談会委員名簿

【任期：平成30年9月5日～翌年度末】

	名 前	ふりがな	備 考
会 長	大串 夏身	おおぐし なつみ	学識経験者
委 員	梶川 悦子	かじかわ えつこ	図書館司書代表
	東 みどり	ひがし みどり	区立小学校長代表
	北村 康子	きたむら やすこ	区立中学校長代表
	鈴木 奈緒美	すずき なおみ	区立幼稚園代表
	角田 真弓	つのだ まゆみ	区立保育園代表
	伊藤 文子	いとう ふみこ	図書館利用者代表(対面朗読ボランティア)
	羽深 由美子	はぶか ゆみこ	図書館利用者代表(読み聞かせボランティア)
	柴田 陽子	しばた ようこ	図書館利用者代表(絵本館ボランティア)
	古屋 眞	ふるや まこと	図書館利用者代表(視聴覚室等利用団体の方)
	鈴木 洋仁	すずき ひろひと	公募委員
	谷 隼太	たに はやた	公募委員
	保坂 恵真	ほさか えま	公募委員
	村山 敦子	むらやま あつこ	公募委員

【事務局】

教育委員会事務局 地域教育力担当部長

教育委員会事務局 中央図書館長